



Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



碓氷関所跡
 この地に関所が成立したのは、元和年間と言われている。それ以前にも碓氷坂に設けられていたが、江戸の幕藩体制が敷かれると、この地に移された。「入り鉄砲に出女」の取締りを主とした要所で、門柱や門扉は当時使用されていたもので、総ケヤキ材の要所に金具を用いた堅固なものである。

諏訪神社
 全国にある諏訪神社のひとつ。諏訪神社は、諏訪湖の両岸にある諏訪大社より祭神の勧請を受けた神社である。





薬師の湧水

薬師堂
碓氷関所の取締りの厳しさに加え、碓氷峠越えを間近に控えたこの地に、無事通過の願いと感謝を込めて建立されたのが、この薬師堂である。

Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



旅籠かぎや跡
 往時の面影を残す。高崎藩納戸役鍵番をしていた当家の先祖が坂本に移住して旅籠を営むにあたって屋号を「かぎや」とつけたと言われている。

金井本陣跡
 ほとんどの大名や例幣使が坂本泊まりであったことから、多くの大名がこの金井本陣に宿泊した。皇女和宮も宿泊された。

上木戸跡
 下には常夜燈碑
 隣には、芭蕉句碑が建っている。

佐藤本陣跡
 坂本宿には本陣が2つあり、佐藤本陣は上の本陣、金井本陣は下の本陣とも呼ばれた。文政年間で31の大名が往来したが、東に碓氷関所、西に碓氷峠がひかえているため、坂本宿への宿泊が必然となり、その結果2軒の本陣が必要であった。

下木戸跡
 坂本宿の江戸側の入口。開閉は「明け六つ(午前6時)」から「暮れ六つ(午後6時)」までであった。

原村の水神





弘法の井戸
諸国をまわっていた弘法大師が、
剝石茶屋に水がないので、ここに
井戸を掘ればよいと伝えられている
霊水である。

剝石坂(はねいしざか)

風穴

柱状節理

堂峰番所跡
堂峰の見晴らしの良い場所(坂本宿に向かって
左側)の石垣上に番所を構え、中山道をはさんで
定附同心の住宅が2軒あった。関門は両方の谷
が迫っている場所をさらに掘り切って道幅だけと
した場所に設置された。現在でも門の土台石や
その地形が石垣と共に残されている。

馬頭観世音碑

覗(のぞき)

丸太階段口

上り地蔵・下り地蔵跡

碓氷湖
坂本ダム

青松寺阿弥陀堂

八幡宮

上木戸跡
下には常夜燈の碑
隣には、芭蕉句碑が建っている。

Google | 200 m | 500 ft

松井田町
坂本
安中市立
坂本小
文
坂本公民館 地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



剝石坂(はねいしざか)

剝石坂には多くの石造物があって、碓氷峠で一番の難所である。むかしは芭蕉の句碑もここにあったが、今は坂本宿の上木戸に移されている。南無阿弥陀仏の碑、大日尊、馬頭観世音がある。ここを下った曲がり角に剝石溶岩の節理がよく分かる場所がある。

柱状節理

火成岩が冷却・固結するとき、亀裂を生じ自然に四角形または、六角形の柱状に割れたもの。

風穴

剝石岩の裂け目から、水蒸気で湿った風が吹き出している穴が

弘法の井戸

馬頭観世音碑

覗(のぞき)

坂本宿を見下ろせる場所で、山梨の老木がある。一茶は「坂本や 袂の下の タひばり」と読んでいる。

上り地蔵・下り地蔵跡

十返舎一九が「たび人の 身をこにはたく なんじよみち 石のうすいの とうげなりとて」と読むほど険阻な道であったため、地蔵が旅人の安全を見つめているとともに、幼児のすこやかな成長を見守っている。

堂峰番所跡

堂峰の見晴らしの良い場所(坂本宿に向かって左側)の石垣上に番所を構え、中山道をはさんで定附同心の住宅が2軒あった。関門は両方の谷が迫っている場所をさらに掘り切って道幅だけとした場所に設置された。現在でも門の土台石やその地形が石垣と共に残されている。

地図 航空写真

玉屋ドライブ
イン



地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約

Google 100 m 200 ft



剱石山 ▲

碓氷坂の関所跡
昌泰2年(899年)碓氷の坂に関所を設けたといわれる場所と思われる。
現在は、小さな小屋があり休憩するにはちょうど良い。

Google 100 m 200 ft





栗が原

明治天皇后巡幸道路と中山道の分かれる場所で、明治8年群馬県最初の「見回り方屯所」があった。これが、交番のはじまりである。

座頭ころがし

急な坂道となり、岩や小石がごろごろしている。それから赤土となり、湿っているので滑りやすいところである。

北向馬頭観世音

馬頭観世音のあるところは危険な場所である。一里塚の入り口から下ると、ここに馬頭観世音が岩の上に立っている。

掘り切り

天正18年(1590年)豊臣秀吉の小田原攻めで、北陸・信州軍を松井田城主大導寺駿河守が防戦しようとした場所で、道は狭く両側が掘り切られている。

一里塚

座頭ころがしの坂を下ったところに、慶長以前の旧道(東山道)がある。ここから昔は登っていった。その途中に小山を切り開き「一里塚」がつくられている。

南向馬頭観世音

この切り通しを南に出た途端に南側が絶壁となる。昔、この付近は山賊が出たところと言われ、この険しい場所を過ぎると、左手が岩場となり、そこにまた馬頭観世音が道端にある。

霧積ダム





山中茶屋跡

山中茶屋は峠の真ん中にある茶屋で、慶安年中(1648年～)に峠町の人々が川水をくみ上げるところの茶屋を開いた。寛文2年(1662年)には、13軒の立場茶屋ができ、寺もあって茶屋本陣には上段の間が2か所あった。明治の頃小学校もできたが、現在は屋敷跡、墓の石塔、畑跡が残っている。

入道くぼ

山中茶屋の入り口に線刻の馬頭観音がある。これから、まごめ坂といって赤土のだらだら下りの道となる。鳥が鳴き、林の美しさを感じられる。

陣場ヶ原案内板

太平記に新田方と足利方の碓氷峠の合戦が記され、戦国時代、武田方と上杉方の碓氷峠合戦記がある。笹沢から子持山の間は萱野原でここが古戦場といわれている。

山中坂

山中茶屋から子持山の山麓を陣場ヶ原に向かって上がる急坂が山中坂で、この坂は「飯喰い坂」とも呼ばれ、坂本宿から登ってきた旅人は空腹ではとても駄目なので、手前の山中茶屋で飯を喰って登った。山中茶屋の繁盛はこの坂にあった。



一ノ字山 ▲

思婦石(おもふいし)

熊野神社

あづまや

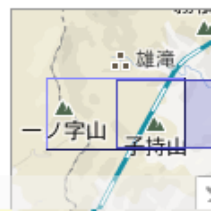
松井田町峠

碓氷山荘 峠町

陣場ヶ原案内板
太平記に新田方と足利方の碓氷峠の合戦が記され、戦国時代、武田方と上杉方の碓氷峠合戦記がある。笹沢から子持山の間は萱野原でここが古戦場といわれている。

萱野原

子持山 ▲



Google



思婦石(おもふいし)
群馬郡室田の国学者、関橋守(せきのはしもり)の作で、安政4年(1857年)の建立である。「ありし代に かへりみしてふ 碓氷山」と刻まれている。

熊野神社
日本武尊が、東国平定の帰路のとき、碓氷峠で濃霧にまかれた。その時、八咫鳥(やたがらす)の道案内によって無事嶺に達する事ができたことより、熊野の大神を祀ったと伝えられる。

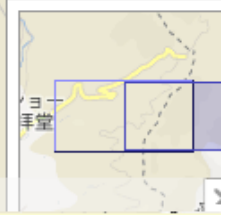
旧中仙道碓氷峠道跡
碓氷峠越えの険しさを旅人は、「旅人の身を粉に砕く難所道 石のうすいの峠なりとて」「苦しくも峠を越せば花の里 みんな揃って身は軽井沢」と唄っていた。峠の頂上には道中安全の神、熊野権現が祀られている。現在の道(舗装路)は明治天皇后巡幸道で、明治11年に改修された道である。

碓氷峠遊覧歩道入口
碓氷峠遊覧歩道の入り口がある。石畳が敷き詰められている。





Google 100 m 200 ft



軽井沢ショー記念礼拝堂

カナダ生まれの宣教師、アレキサンダー・クロフト・ショー氏は、1886年(明治19年)にキリスト教の布教の途中、軽井沢に立ち寄り、軽井沢が避暑地として最適な土地であることを広く紹介した。
その功績を称えて地元民が明治36年に碑を建立した。また、昭和61年、保健休養地100年記念事業としてショーの別荘が「ショーハウス」として復元された。

二手橋

朝に立つ旅人が飯盛女に送られ、ここで東西二手に分かれた場所。

茶屋つるや跡

現在は旅館になっている。昔は、茶屋で強飯やざるそば、煮しめを供した。

芭蕉句碑

天保14年(1843年)に地元の門下生である俳人、小林玉蓮によって建立された。
「馬をさへ なかむる雪の あしたかな」(甲子吟行の句)

脇本陣江戸屋跡

現在は、軽井沢町観光協会になっている。





青松寺



Google 100 m 200 ft





石塔群
庚申塔や道祖神など、数体の石塔が道の傍らにある。



Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 Google, ZENRIN. 利用規約





前沢橋
浅間山が非常に良く見える橋。



100 m
200 ft

長倉神社
天長年間の創建。境内には、長谷川仲の戯曲の碑と、土俵がある。

道祖神
民家の隣に道祖神がある。



Google 100 m 200 ft



馬頭観世音

古宿、借宿は共に信州と北南上州を結ぶ物資輸送の中継地として栄えていた。信州路は馬で、険しい上州路は牛で搬送した。そのため、街道脇の随所に馬頭観音が祀られている。

秋葉神社

元慶2年に創建された神社である。

石碑群

馬頭観世音などの石碑が3基と、少し離れたところに1基ある。





遠近宮(おちこちぐう)
浅間山を御神体とする。

馬頭観世音
古宿、借宿は共に信州と北南上州を結ぶ物資輸送の中継地として栄えていた。信州路は馬で、険しい上州路は牛で搬送した。そのため、街道脇の随所に馬頭観音が祀られている。

馬頭観世音
古宿、借宿は共に信州と北南上州を結ぶ物資輸送の中継地として栄えていた。信州路は馬で、険しい上州路は牛で搬送した。そのため、街道脇の随所に馬頭観音が祀られている。



浅間神社

本殿は室町時代のもので、町内の木造建築としては最古のものである。浅間大神遥拝の里宮で大山祇(おおやまつみ)神と磐長姫(いわながひめ)神の二神が祀られている。

明治2年5月より浅間山の鳴動が特に激しく、沈静祈願のため同年9月明治天皇の勅祭が行われた社として有名である。

境内にある「ふきとばす 石も浅間の 野分かな」の芭蕉句碑は、寛政5年(1793年)春秋庵二世長翠の書で浅間焼石におおわれた追分原に野分が吹くころの風情がしのばれる。

追分の一里塚

日本橋から40番目の一里塚。
今は、この街道の塚が大部分崩壊してしまったが、この追分一里塚はよくその原形を保っており、当時を偲ぶことのできる貴重なものである。

追分宿郷土館

追分宿郷土館
浅間神社

上州道道標
上州道の道標。小さな石碑。

常夜燈

追分一里塚の先の分岐点に常夜燈がある。





土屋本陣跡
問屋を兼ね、貫目改所も設けられていた。建坪350坪で、加賀の前田家をはじめ、多くの大名が宿泊した。1878年に明治天皇の行在所となり、上段の間を残している。

諏訪神社
小林一茶の句碑が建っている。

油屋脇本陣跡
旅籠である油屋の「つげの間」で堀辰雄は「風立ちぬ」を執筆した。

泉洞寺
境内には、弥勒(みろく)菩薩の半伽思惟像があり、左手を頬に当てているため「歯痛地藏」と呼ばれている。

高札場
追分宿の高札場は、問屋前の路中央にあった、法度、掟書きなどを記した。また、さらし首、重罪人の罪状を記し、高く掲げた版札を高札という。
寛永10年(1633)の古文書によると、広さ9尺、横1間、高さ3尺の芝土手を築き、高札場の柱は5寸角のものを使用し、駒よせ柱は4寸角で、高さ6尺の規模であった。
昭和58年、当時の古文書等から、高札場を復元した。ここに掲示してある高札は、複製品で、現物は追分宿郷土館に保管展示されている。

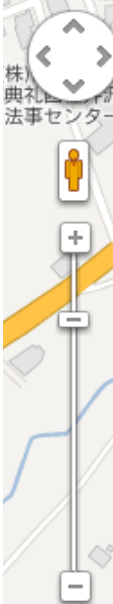
追分本陣門(東門)
現在は、堀辰雄記念館の入口となっている。

枅形茶屋つがるや
寛永12年徳川家光の代、諸大名の参勤交代の制度が実施され、ここを往来する諸侯のため、宿場内には問屋、本陣、脇本陣を設置し、宿の西入口、この辺に枅形の道と土手(高さ約2.5m)を築いて宿内の警備取締りをした。
今、その面影を見ることはできないが、当時枅形の地域内にある茶屋つがるや(枅形の茶屋)の建築にその昔をしのぶことができる。

中山道69次資料館

分去れの碑・常夜燈
「右、従是北国街道 左、従是中山道」と刻まれている。
中山道と北国街道分岐点に位置する「分去れ」は、今も賑わったありし日の面影をとどめている。
右は北国街道姨捨山の「田毎の月」で知られる更科へ。左は中山道で京都へ、そこから桜の名所奈良吉野山へ向かうという意味である。





100 m
200 ft





大山神社
古い木の鳥居が印象的な神社。





御代田の一里塚
日本橋から41里目。
西塚が残っている。保存状態がよく、県
の史跡になっている。





本陣跡
小田井宿の本陣跡。現在この本陣は、
客室部分を良好に残している。

問屋場跡
荷置場、帳場、客室部、厩、土間など
が旧状をよく残している。

宝珠院
境内のアカマツは、樹齢300年以上
である。







Google 100 m 200 ft

久 JCT
ミバホーム スイインター店
地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





鵜縄沢端一里塚
この一里塚は、慶長年間(1599~1614年)中山道開通の当初に設置されたものである。その後、道路改修によって街道から外れてしまったが、両塚の間の道路は中山道の古い道筋を示すもので貴重なものである。







住吉神社
 鳥居の脇に、樹齢400年のケヤキがある。幹は空洞で「住吉の祠」といわれている。道祖神など多数の石碑がある。

龍運寺
 鎌倉時代の初め、地頭大井氏(甲斐源氏)の菩提寺として創建された。しかし、その後戦火のため荒れ果て、位置も現在へ移った。武田信玄が信濃の経略が一段落した永禄3年(1560年)中興開基となり、北高全祝禪師を迎えて興隆をはかった。



西念寺
 この西念寺には、座高が130cmを超える「木造阿弥陀如来坐像」がある。
 檜材・寄せ木造り・漆箔・螺髪彫出し・定印の阿弥陀如来坐像で、浄土真宗一行山西念寺本尊である。

神明神社

御嶽神社

100 m
200 ft





バーサイド
平塚C
リバーサイド
平塚B
サイド
塚A

佐久市中佐都農協
果樹共同防除施設

Google
100 m
200 ft

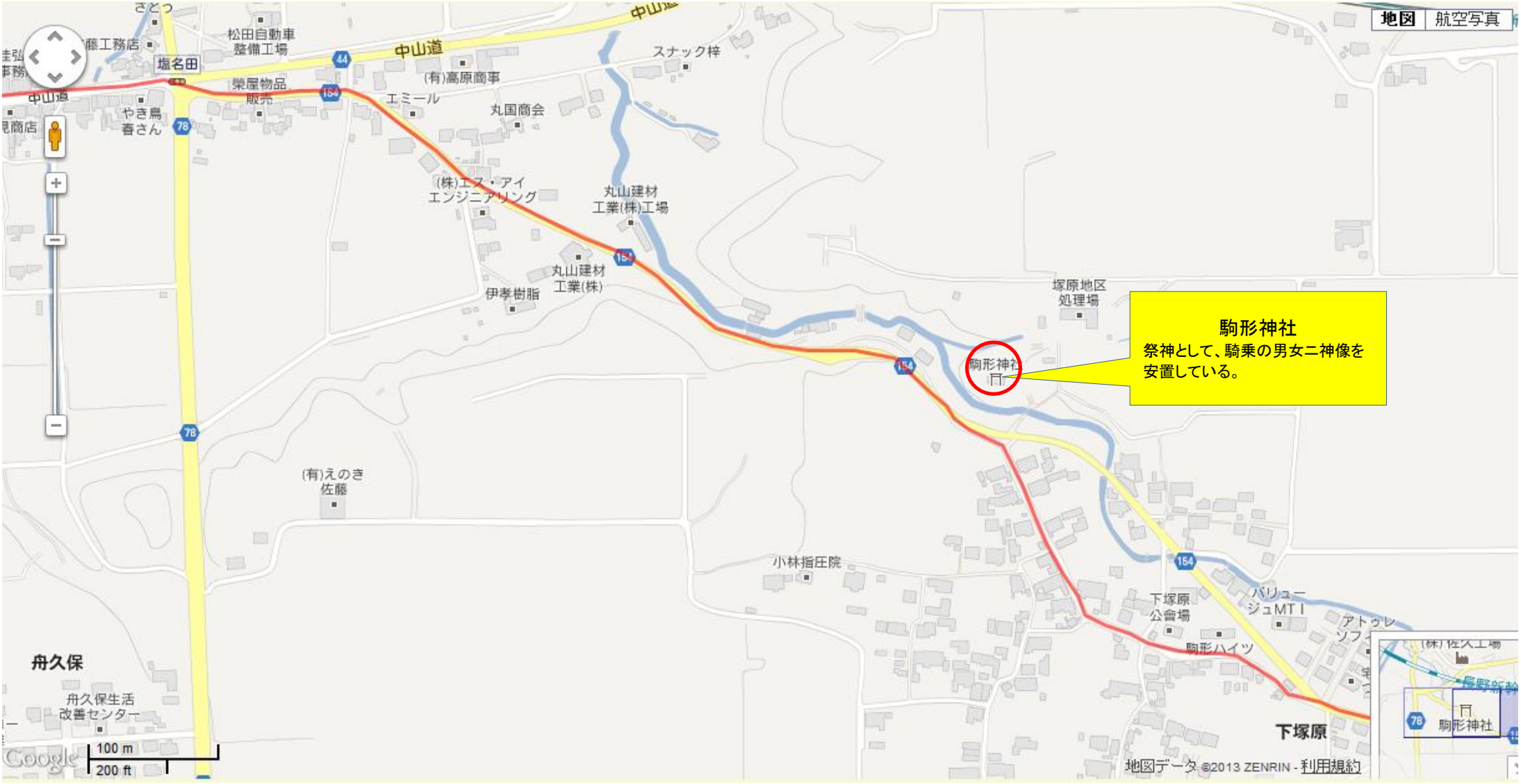






妙楽寺
若い修行僧の学問寺であったという。

諏訪神社
同県にある諏訪大社から勧請された、全国各地にある諏訪神社の一つ。御嶽山石碑がある。



駒形神社
祭神として、騎乗の男女二神像を
安置している。

舟久保

舟久保生活
改善センター

Google 100 m 200 ft

地図データ ©2013 ZENRIN - 利用規約





大圓寺
記

舟つなぎ石
千曲川に船橋(舟をつないで、その上に板架け渡した橋)の舟をつないでいた石で、上部に穴があいている。

本陣跡
本陣、問屋場が宿のほぼ中央の付近にあった。現在は説明板が残るのみである。



御馬寄一里塚跡
日本橋から44番目の一里塚。

大日如来坐像
丘の上にあり、極楽往生信仰で素俗な表情をしている。他にも常夜燈がある。

